

ベネズエラ情勢（内政・外交：平成29年2月）

1 内政

（1）エル・アイサミ副大統領への制裁

ア 13日、米財務省対外資産管理局 (OFAC) が、エル・アイサミ副大統領及び同副大統領のパートナーである企業家ロペス・ベジョが、麻薬密輸に関与しているとして、制裁リストに加えた。同制裁は、米国内における同副大統領が関与する取引を禁止し、同副大統領の米国内の資産を凍結した。

イ 14日、マドゥーロ大統領及び当国外務省が、同制裁措置を非難するとともに、ロドリゲス外相が、マックレニー当地米国大使館臨時代理大使を召致し、抗議文を手交した。

ウ 14日、ムニューチン米財務長官が、定例会見において、「エル・アイサミ副大統領への制裁は数年間の調査に基づくものであり、巨額の資産を凍結した。トランプ米大統領は、米国は、ベネズエラ国民とともにいるとの明確なメッセージを発したいと考えている。」と発言した。

エ 22日、エル・アイサミ副大統領のムニューチン米財務長官宛の公開書簡が、米ニューヨーク・タイムズ紙（全面ページ）に掲載された。

（2）トランプ米大統領のツイッター発言

ア 15日、ティントリ・ロペス大衆意志党党首夫人が、ワシントンにおいてホワイトハウスを訪問し、トランプ米大統領、ペンス米副大統領、ルビオ米上院議員と会談し、同大統領が、自らのツイッターにおいて、ロペス党首の釈放を求める発言をした。

イ 15日、マドゥーロ大統領は、テレビ番組において、トランプ米大統領と争いを望まないと発言した。同日、ロドリゲス外相は、自らのツイッターを通じ、トランプ米大統領の干渉、攻撃を非難した。

ウ 18日、米務省が、ロペス大衆意志党党首、レデスマ・カラカス前大市長を含む政治囚の早急な釈放、国民の意思を反映する民主的なプロセスの回復を要求するとのコミュニケを発出した。

（3）CNN エスパニョール放送の停止

ア 15日、国内における、CNN エスパニョールの放送が停止された。（CNN エスパニョールの番組において、ベネズエラ政府が、国際的なテロ組織へのパスポートの不正取引に関与していると放送されたことに対する措置）

イ 15日、ロドリゲス外相及びビジェガス通信情報相は、ベネズエラに対する国際的なメディアキャンペーンがあり、CNN エスパニョールは、ベネズエラに関するうそ、偽りを放送していると非難した。

（4）選挙へ向けた動き

ア 7日、全国選挙評議会（CNE）は、政党登録更新期間を、2月18日～4月23日

とするとし、過去2回の選挙に参加しなかった政党、もしくは、前回の選挙で1%の支持票を獲得できなかった59の政党は、更新プロセスが必要であると発表した。

イ 15日、全国選挙評議会（CNE）は、政党登録更新プロセスのスケジュール及び全国の421か所の会場での署名集めの実施を発表した。

ウ 16日、全国選挙評議会（CNE）は、2月18日から開始予定であった政党登録手続き期間を3月4日からと発表した。

（５）最高裁

ア 24日、マイケル・モレノ（前最高裁第一副長官兼刑事法廷判事）が、最高裁長官に任命された。

（６）会計検査院

ア 20日、会計検査院は、現国会会計検査員が、正式な手続きを踏まずに任命されていることに対し、新たな国会会計検査員にマイレン・リオスを任命すると官報第41095号において発表した。国会は、同会計検査員の受入を拒否したため、会計検査院は、かかる国会の行為は、会計検査院を遵守していないと表明した。

イ 22日、ガリンド会計検査院長は、最高裁に対し、国会に対する憲法の遵守を要請し、国軍の力を使ってでも、国会が、会計検査院が任命した会計検査員を受け入れることを義務付けように要求した。

（７）その他政府・与党の動き

ア 17日、エル・アイサミ副大統領は、自らのツイッターにおいて、100ボリバル紙幣の有効期限を2月20日から3月20日まで延長することを発表した。

イ 19日、マドゥーロ大統領は、ピント・ブランコ新漁業・水産相（海軍大将）、アレアサ新鉱業開発・エコロジー相（元副大統領）を任命した。

ウ 24日、マドゥーロ大統領は、モンカダ新北米担当外務次官、ヤネス新ラ米担当外務次官、リカウシ新カリブ担当外務次官、ヒル新欧州担当外務次官を任命した。

（８）その他国会・野党の動き

ア 6日、フロリド国会外交委員会委員長が、ペルー議会に招待され、（先日、パスポートが無効とされたが、メルコスール協定によってパスポートなしでの渡航が認められている）同国へ渡航しようとしたところ、内務司法省身分証明・移民・外国人登録局（SAIME）によって、出国が認められなかった。

イ 7日、ダビラ国会議員（野党連合 MUD）が、米国上院・下院議員、アルマグロ OAS 事務総長との会合のために、米国へ渡航しようとしたところ、内務司法省身分証明・移民・外国人登録局（SAIME）から、紛失のためパスポートは無効となっていると告げられ、出国できなかった。

ウ 8日～9日、ボルヘス国会議長は、ブラジルを訪問し、マイア・ブラジル下院議員、セーハ・ブラジル外相等と会談し、民主的な選挙の実施への支持等を求めた。これに対し、9日、ロドリゲス外相は、自らのツイッターを通じ、「不当な会合を非難する。」と

発言した。

エ 14日、ボルヘス国会議長は、コロンビア上院議会において、「マドゥーロ大統領は、独裁者であり、民主主義が抹消されている。コロンビアの和平プロセスも脅かされるため、コロンビア政府の連帯を求める。」と発言した。15日、同議会は、ベネズエラ国会への連帯を承認した。

オ 17日、野党連合 MUD は、方針等の決定を主要政党4党の協議から9党（AD, UNT, VP, PJ, La Causa R, Movimiento Progresista Venezolano, Avanzada Progresista, ABP, Vente Venezuel）に拡大すること、トレアルバ野党連合 MUD 事務局長が辞任すること、技術、政治、社会の3グループを組織し、ホセ・ルイス・カルタヤ氏が、その全般的オペレーションの調整役に就任することを発表した。

カ 18日、大衆意志党は、収監中のロペス党首の呼びかけに応じ、カラカスにおいて、独裁反対のスローガンの下、政府への抗議デモを実施したが、動員数は少なく、主だった混乱はなく終了した。

（9）その他

ア 11日、スリア州人権委員会によると、ブラジル人ジャーナリスト2名とベネズエラ人ジャーナリスト2名が、ブラジル大手建設会社オデブレヒトの放置された工事現場（ニガレ橋）を調査していたところ、内務司法省諜報局（Sebin）に逮捕された。12日、同ブラジル人ジャーナリスト2名は、リマ経由で強制送還された。

イ 12日の「青年の日」に、政府支持の若者によるデモ、野党派の学生によるデモが行われ、主だった混乱はなく終了した。

ウ 23日、ゲバラ・カラボボ大学教授が、国軍諜報局（DGCM）に出頭を命じられ、国家反逆と反乱の扇動の容疑で逮捕された。

2 外交

（1）対米関係

ア 8日、ルビオ米上院議員（共和党）等34人の米国上院議員が、トランプ米大統領宛に、マドゥーロ政権による汚職や人権侵害のため、ベネズエラへの制裁を強めるよう求める要求書を送付し、その中で、エル・アイサミ副大統領は、麻薬取引に関わり、中東テロリストを援助しており、特に注視する必要があるとした。

イ 19日、米国政府は、トランプ米大統領とバレーラ・パナマ大統領の電話会談において、「ベネズエラの民主主義への尊重を激励する重要性」について協議したと発表した。

ウ 24日、トランプ米大統領は、クチンスキー・ペルー大統領との会談前に、米国は、ベネズエラとの間に問題を抱えていると発言した。クチンスキー大統領は、ベネズエラから周辺諸国への大量の移民問題について述べ、数か国のグループでベネズエラを支援する必要があると発言した。

（２）ロドリゲス外相、マルティネス石油相の中東外遊

ア ６日～１１日、ロドリゲス外相兼 PDVSA 国際関係担当副総裁、マルティネス石油相が、ロシア、イラン、イラク、クウェート、サウジアラビア、カタール、オマーン、アルジェリアの産油国を外遊し、各国の外相、石油・エネルギー相と減産合意の確認と二国間関係の強化等について会談した。

（３）ロペス大衆意志党党首釈放にかかる発言

ア １６日、ラホイ・スペイン首相は、自らのツイッターにおいて、「ロペス大衆意志党党首が収監されてから３年である。我々は、正義、人権、政治囚の釈放を求める。」と発言した。

イ １７日、スペイン政府は、イセア在スペイン・ベネズエラ大使を召致し、マドゥーロ大統領が、ラホイ・スペイン首相は、ごろつきであり、犯罪者、殺人者の庇護者であると発言したことに対し抗議した。

ウ １７日、マクリ・アルゼンチン大統領は、ベネズエラにおいて、民主主義も人権も尊重されていないと発言し、最高裁によるロペス大衆意志党党首に対する１３年９か月の有罪判決の確定を非難した。これに対し、同日、ロドリゲス外相は、自らのツイッターを通じ、侮辱的な内政干渉であると非難した。

（４）ブラジル大手建設会社オデブレヒトの汚職問題

ア １５日、裁判所は、検察庁の求めにより、ブラジル大手建設会社オデブレヒトのベネズエラ国内口座を凍結し、資産譲渡を禁止したと発表した。

イ １６日～１７日、ベネズエラを含む１５カ国の検事総長等が、ブラジリアにおいて、ブラジル大手建設会社オデブレヒトの汚職問題の調査について連携するため、会合した。

（５）その他

ア ９日、オルギン・コロンビア外相は、８日、リンコン在コロンビア・ベネズエラ大使を召致し、バルガス・ジェラス・コロンビア副大統領に対する当国外務省やカベージョ国会議員等の発言に対する、抗議書簡を渡したことを明かした。これに対し、１０日、カベージョ国会議長が、また、１１日、当国外務省が、同対応を非難した。

イ ２３日、ロドリゲス外相が、当国を訪問中のマーリキー・パレスチナ外務庁長官と二国間関係、パレスチナ問題について会談した。

ウ ２４日、国連は、ベネズエラを含む６か国が、国連分担金を未払いであるとして、一時的に投票権を失ったと発表した。

エ ２７日、グテーレス国連事務総長は、ベネズエラ・ガイアナ国境問題に関する事務総長個人代表に、ナイランダー（Dag Halvor Nylander）氏（ノルウェー国籍）を任命した。

オ ２８日、ロドリゲス外相は、第３４回国連人権理事会定例会合に出席し、ベネズエラに対する内政干渉を正当化しようとする国際的右派による攻撃があると非難した。